

県民意識調査等の結果の概要

I 調査概要

- 調査対象 石川県在住の 18 歳以上の男女 5,000 人
- 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- 調査時期 令和 4 年 9 月 22 日～10 月 12 日
- 回答方法 郵送またはインターネット
- 調査項目 暮らしやすさなど生活面や県政への満足度・ニーズに関する項目など計 37 項目
- 有効回答数 2,224 件 (44.5%)

⇒回答結果は、調査の母集団の構成（年代別構成比）に合わせて、ウエイトバック集計により補正

◆若い世代の意見聴取

県立学校の高校生や、石川県 LINE 公式アカウントに登録している方（30 代以下）など、若い世代を対象に、補足調査を実施した。

- 調査対象 県立高校 38 校の生徒
石川県 LINE 公式アカウントの登録者 (30 代以下)
県庁インターンシップの参加学生
いしかわシティカレッジの受講者
- 調査時期 令和 4 年 10 月 22 日～11 月 13 日
- 有効回答数 996 名 (18 歳未満:753 名、18 歳～39 歳:243 名)

◆県外から見た石川県の良さの把握

県外から石川県への移住者に対し、石川県での生活で満足している点などの補足調査を実施した。

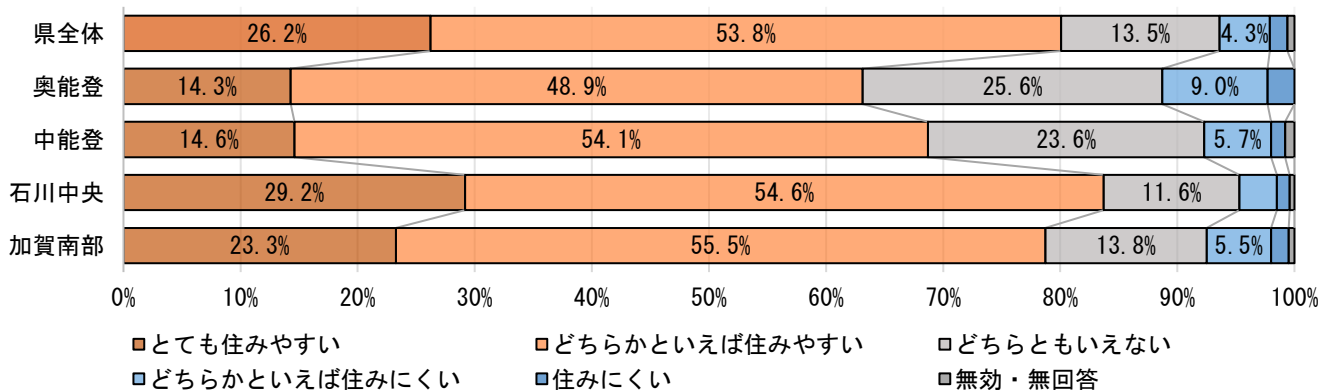
- 調査対象 いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)を通じて過去 2 年以内に県内へ移住した 1,159 名
- 調査時期 令和 4 年 10 月 28 日～11 月 13 日
- 有効回答数 150 名

Ⅱ 調査結果の概要

<住みやすさについて>

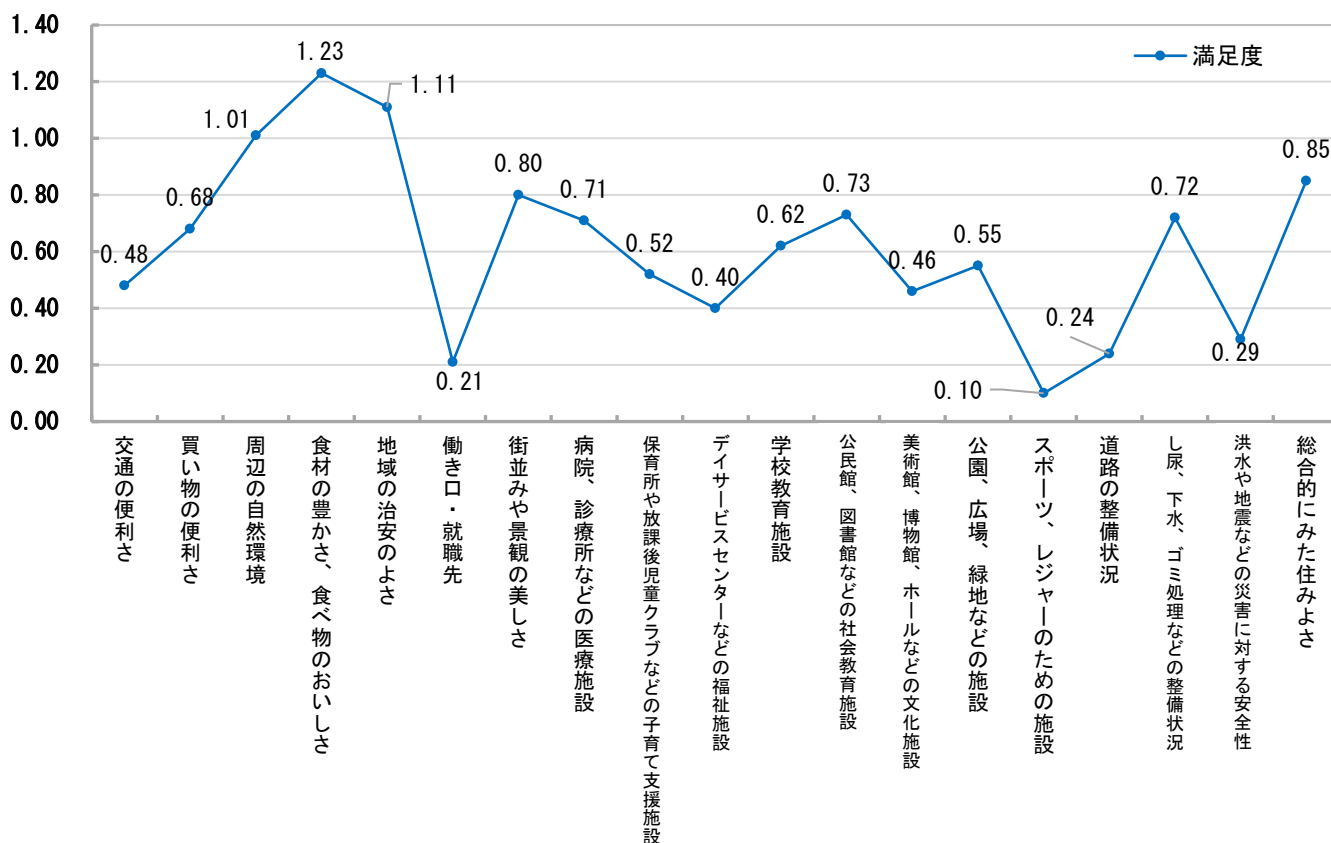
1. あなたが普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）の住み心地は
 どうですか

- ・ 8割の方が「住みやすい」と感じており、前回調査(H26:78.1%)より1.9%増加した
- ・ 地域別では、石川中央が最も高く(83.8%)、次いで加賀南部(78.8%)、中能登(68.7%)、奥能登(63.2%)



2. あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足して
 いますか（分野別）

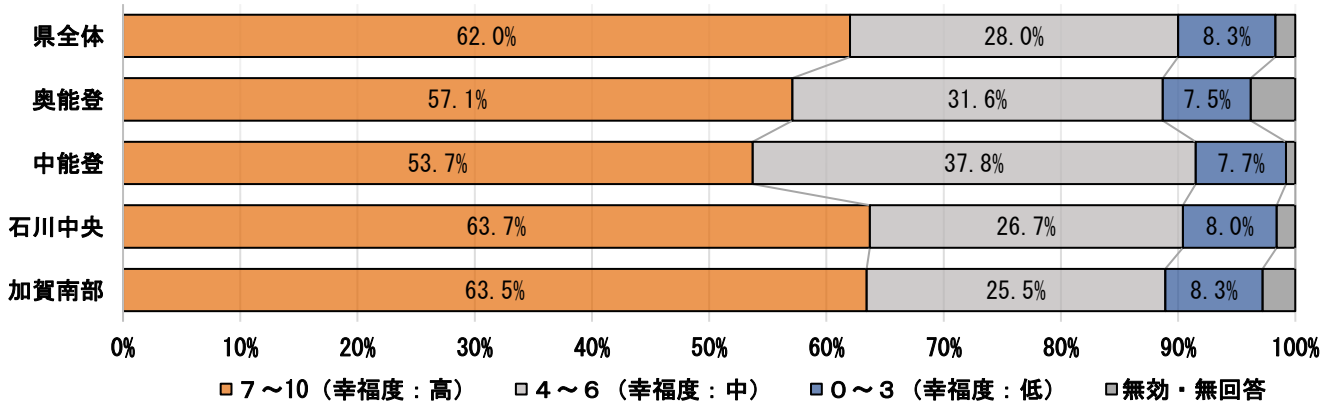
- ・ 「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」「地域の治安のよさ」「周辺の自然環境」の満足度※が高い
 - ・ 一方、「スポーツ、レジャーのための施設」「働き口・就職先」「道路の整備状況」「洪水や地震などの災害に対する安全性」の満足度が低い
- ※ 「満足している」～「不満である」を+2点～-2点の5段階で数値化した場合の加重平均値



<幸福度について>

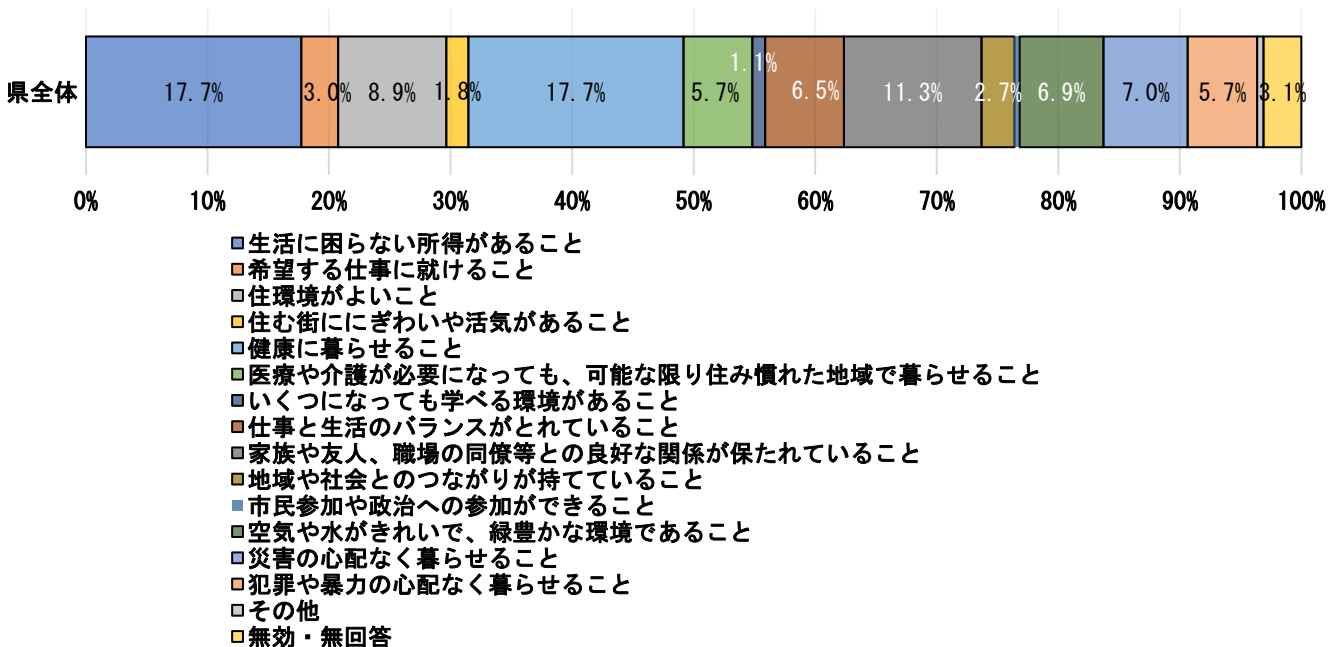
3. 現在、あなた自身はどの程度幸せですか

- ・幸福度が高い方は約6割
- ・地域別では、石川中央が最も高く（63.7%）、次いで加賀南部（63.5%）、奥能登（57.1%）、中能登（53.7%）



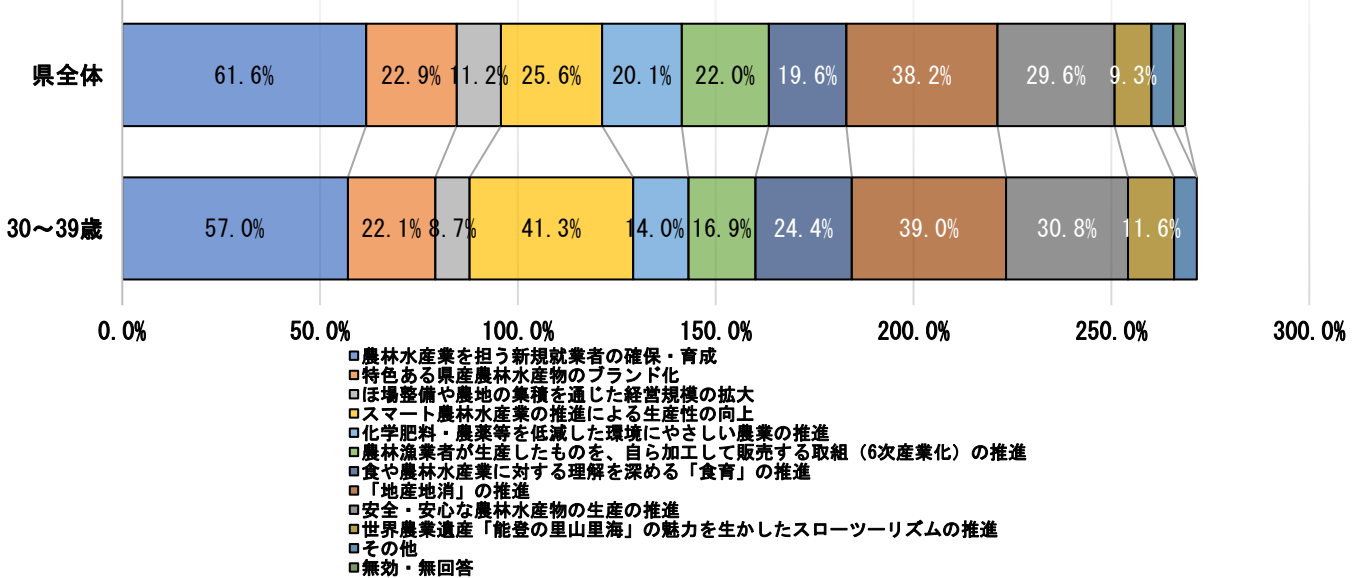
4. 幸福度を判断する際に、重視した事項は何ですか

- ・「生活に困らない所得」、「健康に暮らせる」がともに高く（17.7%）、次いで「家族や友人、職場の同僚等との良好な関係が保たれている」（11.3%）



7. 今後、農林水産業を活性化させるには、どのようなことが必要であると思いますか。

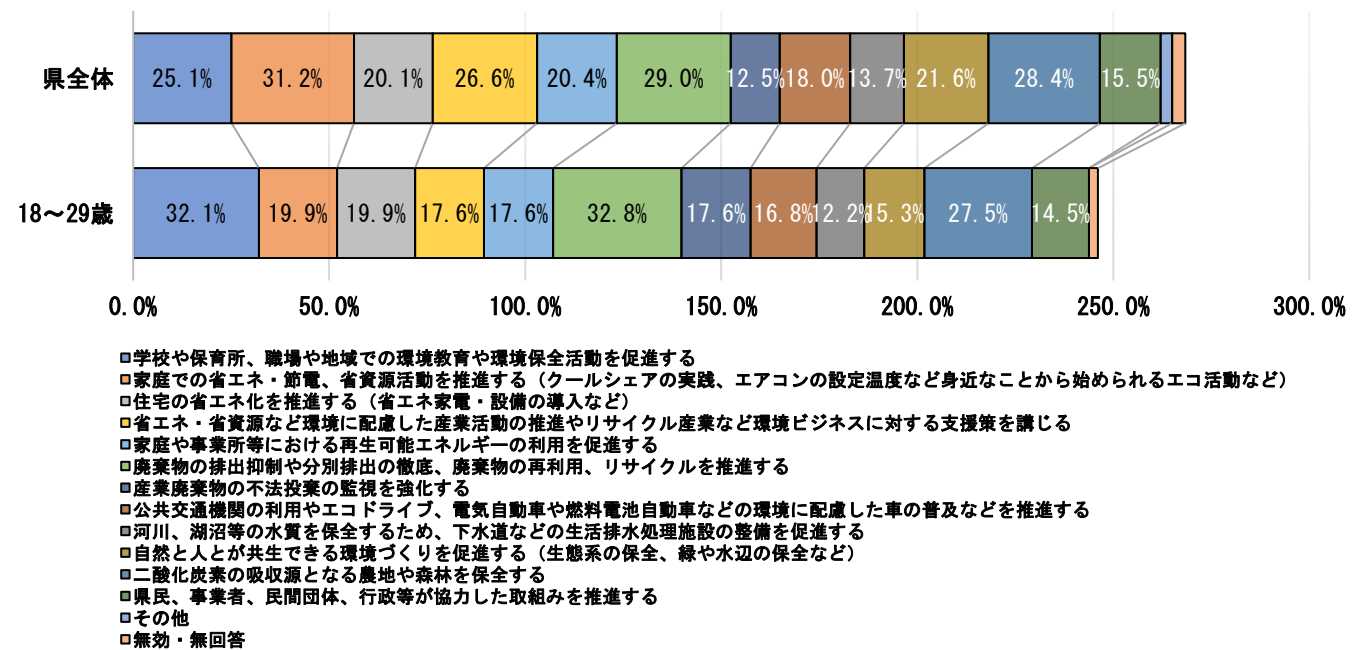
- ・「新規就業者の確保・育成」が最も高く（61.6%）、次いで「地産地消の推進」（38.2%）、「安全・安心な農林水産物の生産の推進」（29.6%）
- ・年齢別では、30～39歳は「スマート農林水産業の推進による生産性の向上」が41.3%と高い（県25.6%）



<環境保全>

8. 地球温暖化の防止をはじめ、環境にやさしい社会づくりを目指すうえでどのような対策が必要だと思いますか

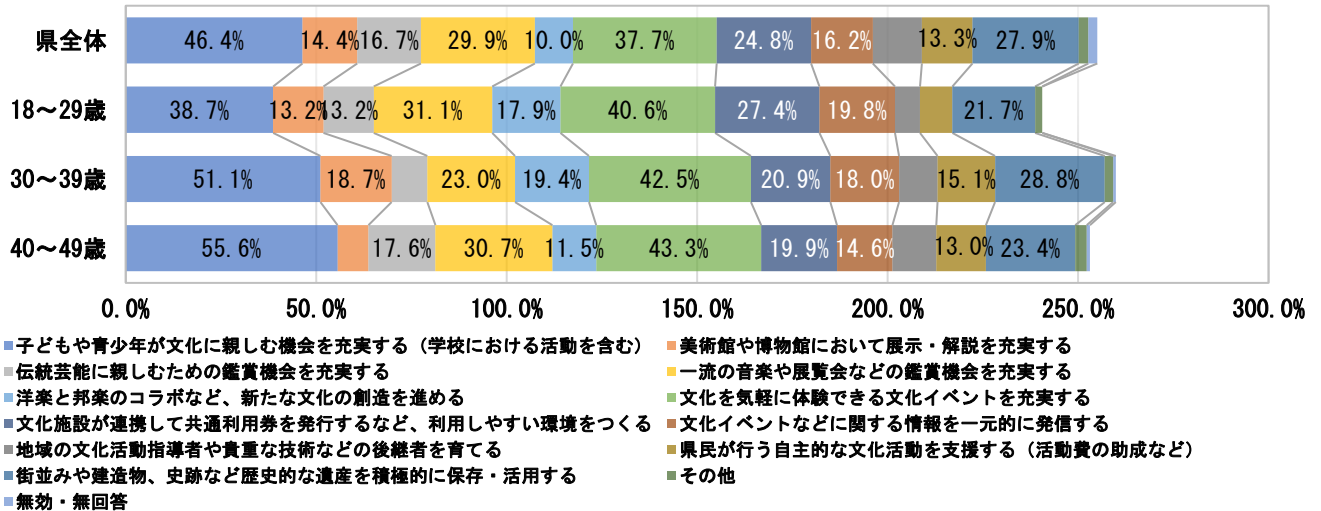
- ・「家庭での省エネ・節電、省資源活動の推進」が最も高く（31.2%）、次いで「廃棄物の排出抑制や分別排出の徹底、廃棄物の再利用、リサイクルの推進」（29.0%）、「二酸化炭素の吸収源となる農地や森林の保全」（28.4%）
- ・年齢別では、18～29歳は「家庭での省エネ・節電、省資源活動の推進」が19.9%と低い（県31.2%）



<文化・スポーツ活動>

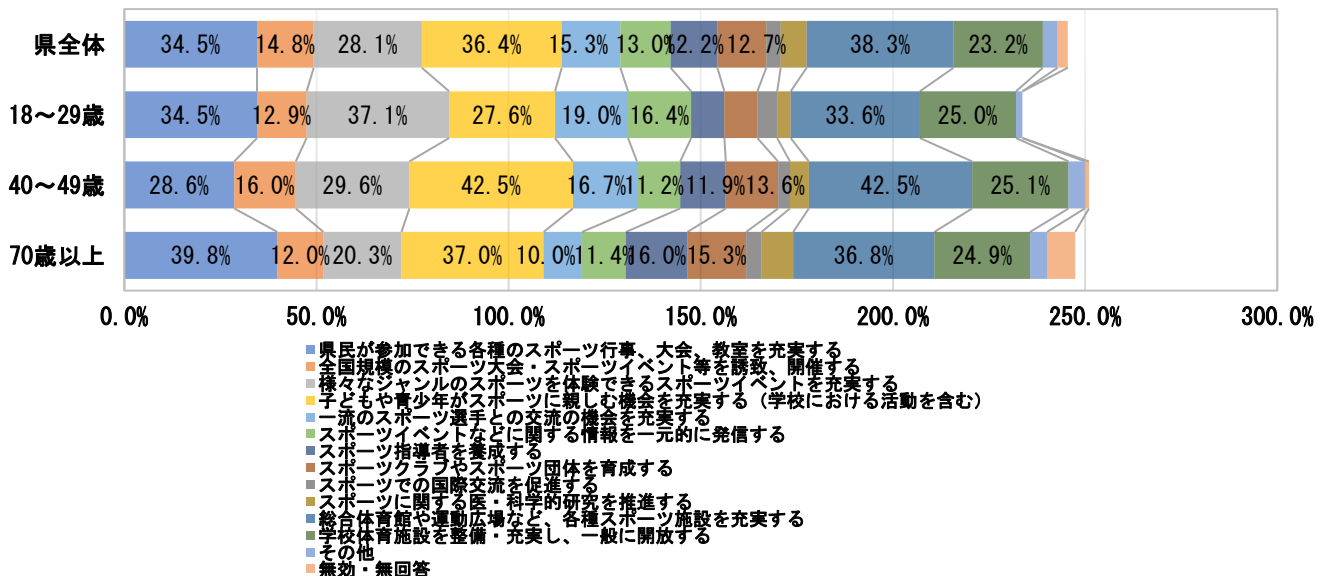
9. より多くの方に文化的活動に参加してもらうために、どのようなことが必要だと思いますか。

- ・「子どもや青少年が文化に親しむ機会の充実」(46.4%)が最も高く、次いで「文化を気軽に体験できる文化イベントの充実」(37.7%)、「一流の音楽や展覧会などの鑑賞機会の充実」(29.9%)となる
- ・年齢別では、「子どもや青少年が文化に親しむ機会の充実」は30～49歳が多く(51.1～55.6%)、「文化を気軽に体験できる文化イベントの充実」は18～49歳が多い(40.6～43.3%)



10. より多くの方にスポーツ活動に参加してもらうために、どのようなことが必要だと思いますか

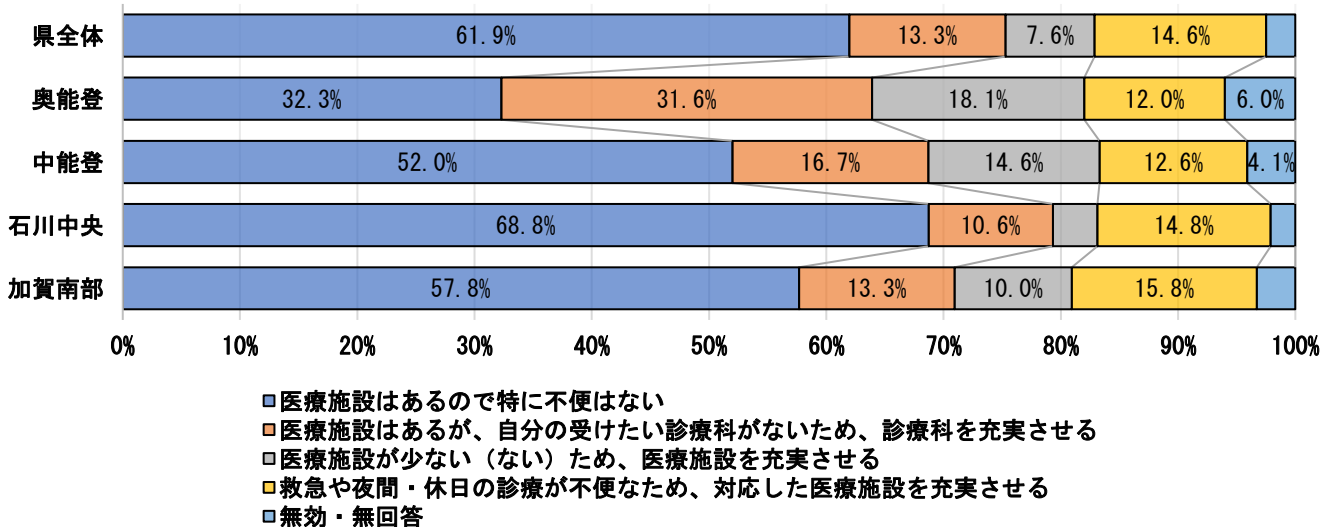
- ・「総合体育館や運動広場などのスポーツ施設の充実」(38.3%)が最も高く、次いで「子どもや青少年がスポーツに親しむ機会の充実」(36.4%)、「県民が参加できるスポーツ行事、大会、教室の充実」(34.5%)となる
- ・年齢別では、「子どもや青少年がスポーツに親しむ機会の充実」は40～49歳が多く(42.5%)、「様々なジャンルのスポーツを体験できるイベントの充実」は若い世代ほど多い(18～29歳 37.1%、70歳以上 20.3%)



<医療・福祉>

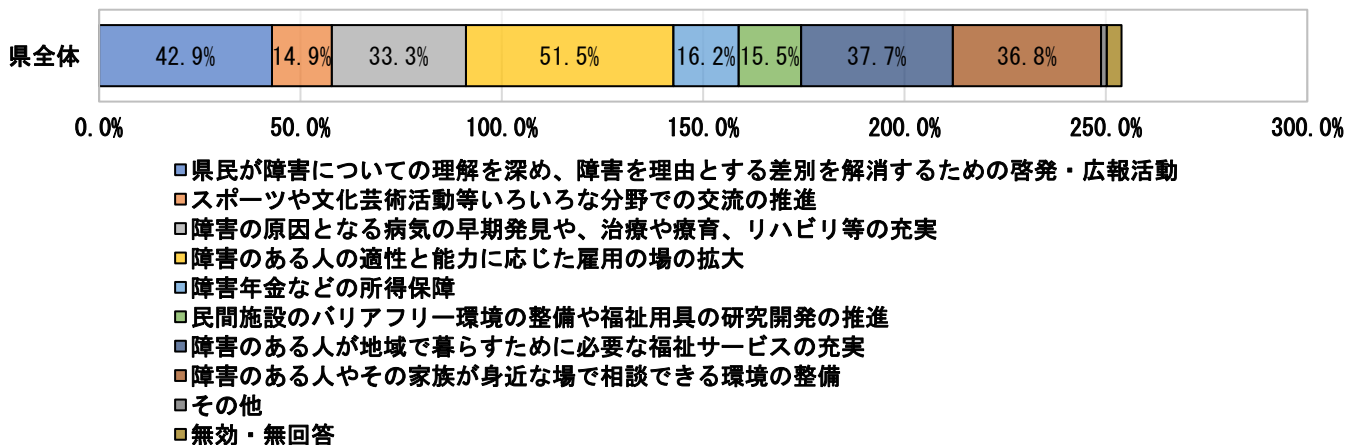
1.1. お住まいの地域の病院・診療所で診療を受ける際に、不便な点はありませんか。不便な点がある場合、どのようなことが必要だと思いますか

- ・「特に不便はない」が6割程度いる一方、不便な点として「救急や夜間・休日の診療が不便」が最も多く（14.6%）、次いで「医療施設はあるが、自分の受たい診療科がない」（13.3%）、「医療施設が少ない」（7.6%）
- ・地域別では、奥能登では「不便を感じている」が多く（61.7%）、「医療施設はあるが、自分の受たい診療科がない」（31.6%）、「医療施設が少ない」が多い（18.1%）傾向



1.2. 障害のある人の社会参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか

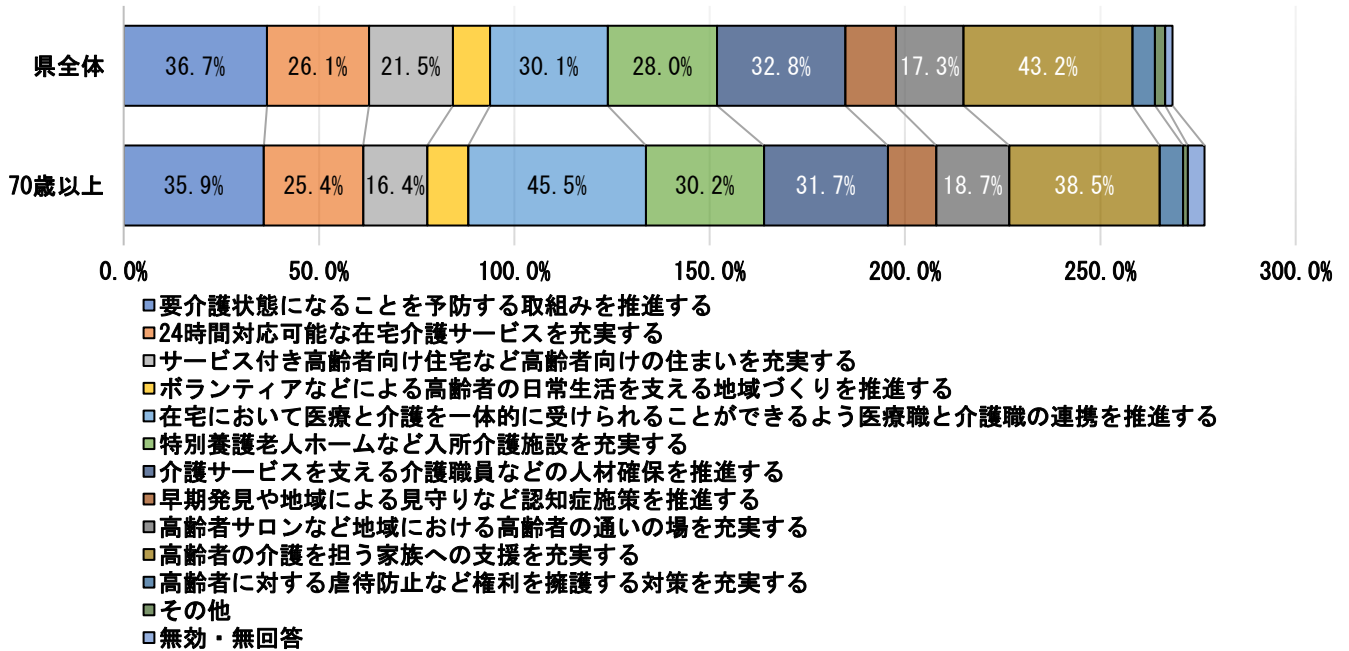
- ・「障害のある人の適性等に応じた雇用の場の拡大」が最も高く（51.5%）、次いで「県民が障害についての理解を深め、障害を理由とする差別を解消するための啓発・広報活動」（42.9%）、「障害のある人が地域で暮らすために必要な福祉サービスの充実」（37.7%）



<少子・高齢化>

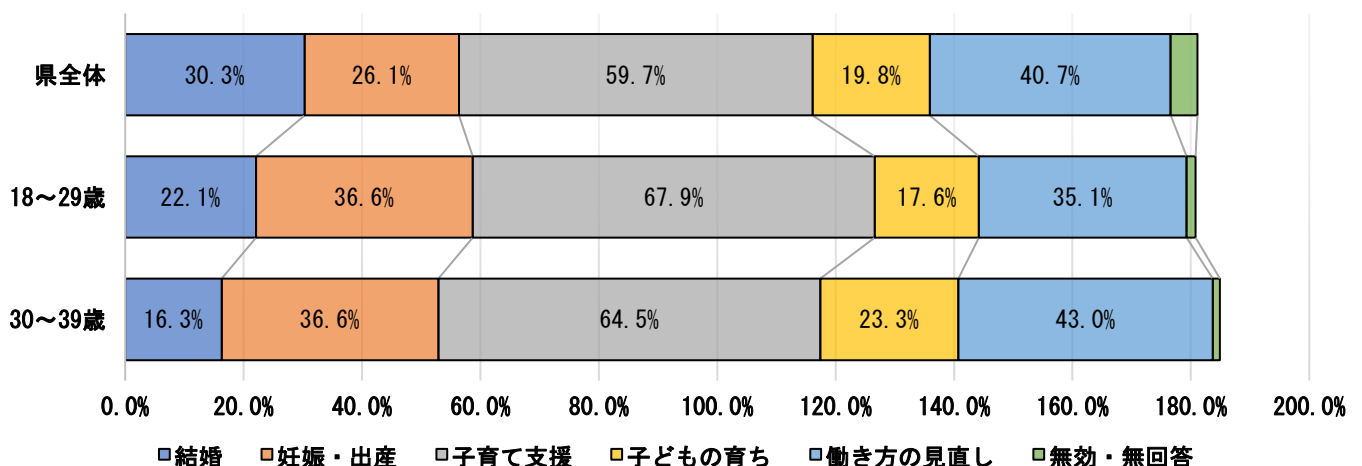
13. 超高齢社会が到来した現在において、どのような対策が必要だと思いますか。

- ・「高齢者の介護を担う家族への支援の充実」が最も高く（43.2%）、次いで「要介護状態になることを予防する取組みの推進」（36.7%）、「介護サービスを支える介護職員などの人材確保の推進」（32.8%）
- ・年齢別では「在宅において医療と介護を一体的に受けられることができるよう医療・介護職の連携の推進」が、70歳以上で45.5%と高い傾向（県30.1%）



14. すこやかに子どもを生み育てていくために支援していく分野として、必要だと思われる分野についてお答えください。

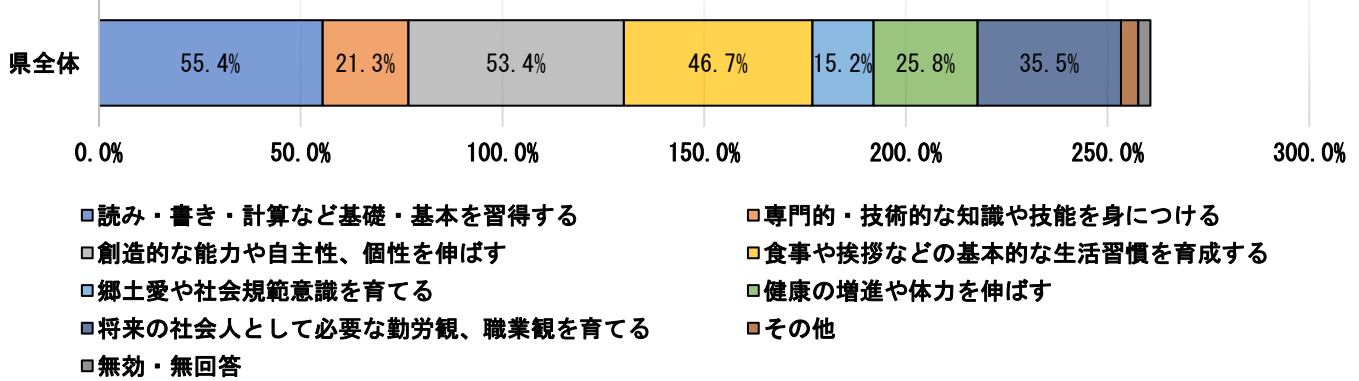
- ・「子育て支援」が最も高く（59.7%）、次いで「働き方の見直し」（40.7%）、「結婚」（30.3%）
- ・年齢別では、18～29歳は「妊娠・出産」が36.6%と高い（県26.1%）



<教育>

15. 学校教育について、どのようなことに力を入れてほしいと思いますか

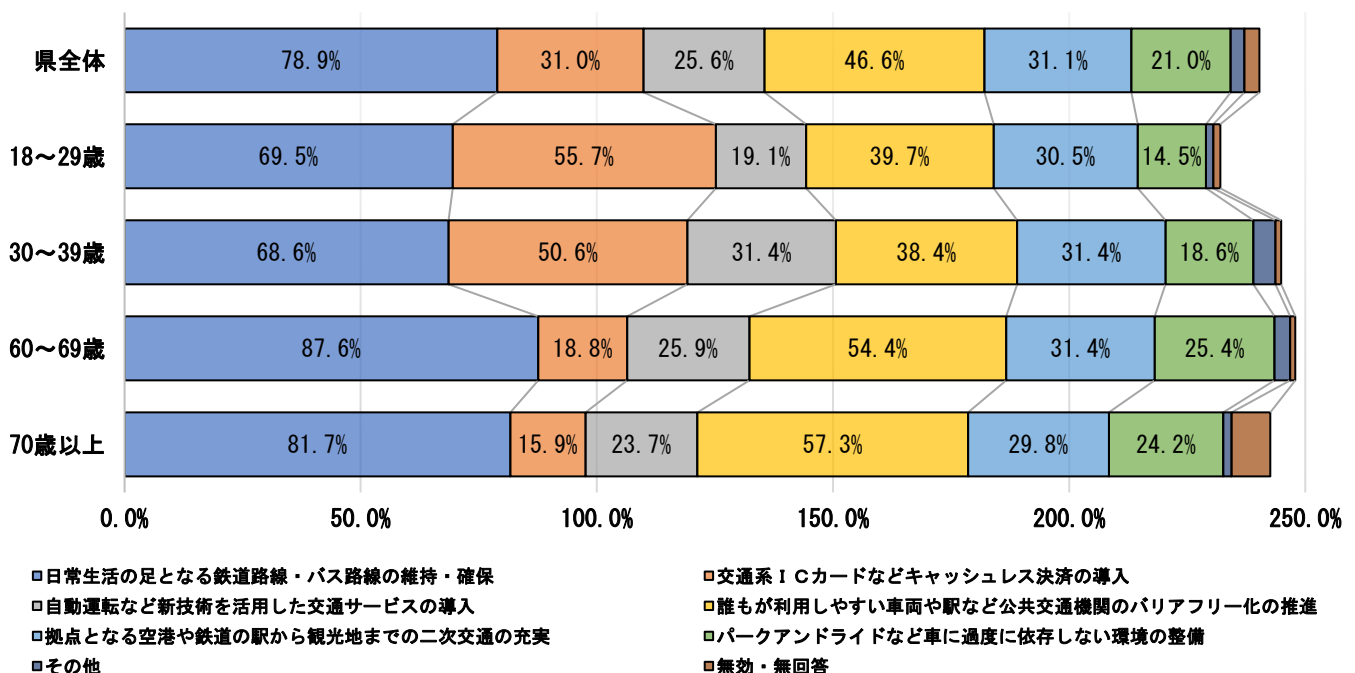
- ・「読み・書き・計算など基礎・基本を習得する」が最も高く（55.4%）、次いで「創造的な能力や自主性、個性を伸ばす」（53.4%）、「食事や挨拶などの基本的な生活習慣を育成する」（46.7%）



<地域公共交通>

16. 安全・安心で快適な県民生活や地域経済の活性化のために、どのような地域公共交通政策の充実が必要だと思いますか

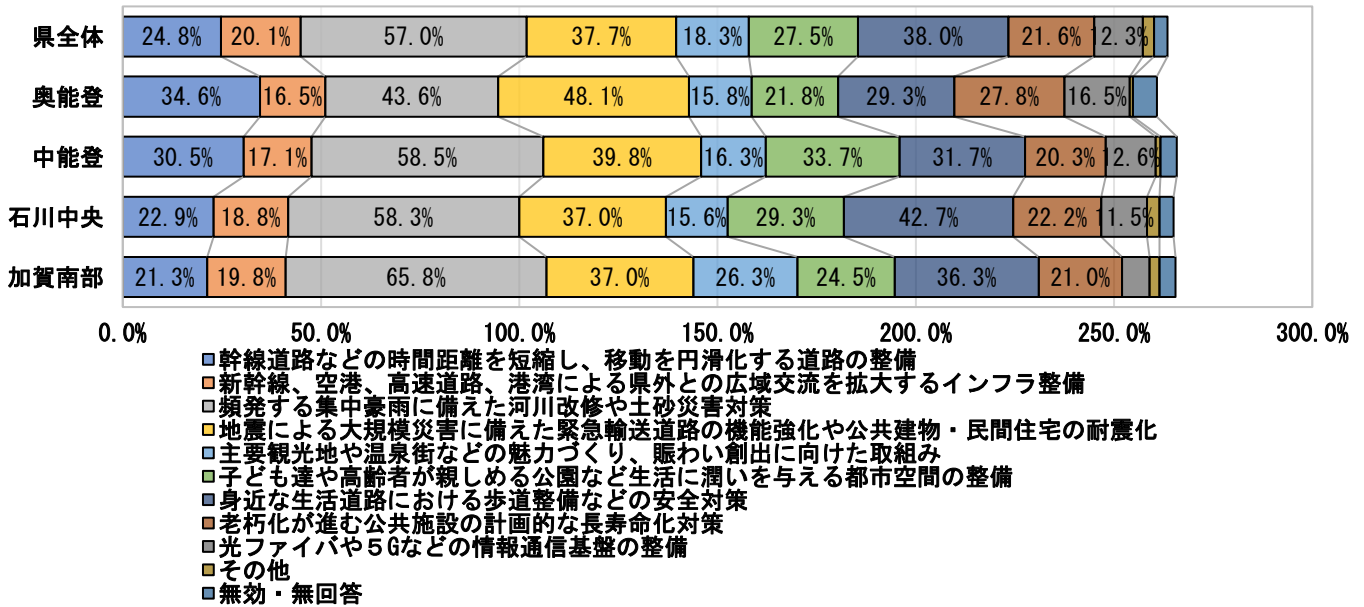
- ・「鉄道路線・バス路線の維持・確保」が顕著に高く（78.9%）、次いで「公共交通機関のバリアフリー化の推進」（46.6%）、「拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの二次交通の充実」（31.1%）
- ・年齢別では、「交通系ICカードなどキャッシュレス決済の導入」は18～39歳で高く（50.6～55.7%）、60歳以上では低い（15.9～18.8%）
- ・「公共交通機関のバリアフリー化の推進」は60歳以上で高い（54.4%～57.3%）



<基盤整備>

17. 基盤整備について、何に重点をおいて進めればよいと思いますか

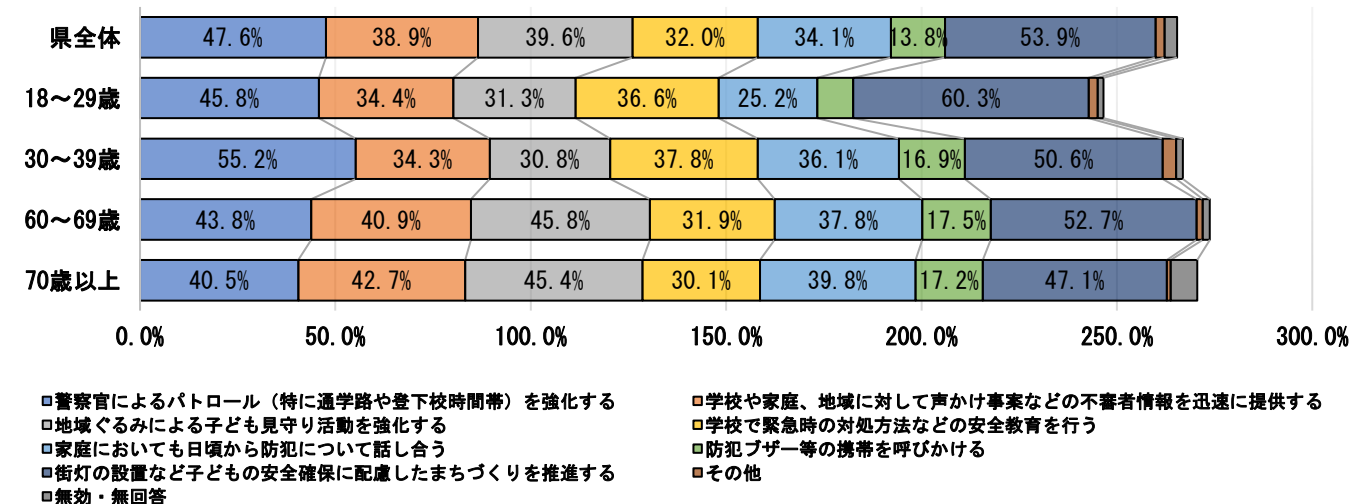
- ・「集中豪雨に備えた河川改修や土砂災害対策」が最も高く（57.0%）、次いで「生活道路における歩道整備等の安全対策」（38.0%）、「地震に備えた緊急輸送道路の機能強化や公共建物・民間住宅の耐震化」（37.7%）
- ・地域別では、奥能登は「地震に備えた緊急輸送道路の機能強化や公共建物・民間住宅の耐震化」が48.1%と高く（県37.7%）、加賀南部は「集中豪雨に備えた河川改修や土砂災害対策」が65.8%と高い（県57.0%）



<安全・安心>

18. 犯罪被害から子どもを守るため、どのような取組みが必要だと思いますか

- ・「街灯の設置など子どもの安全確保に配慮したまちづくりの推進」が最も高く（53.9%）、次いで「警察官によるパトロールの強化」（47.6%）、「地域ぐるみによる子ども見守り活動の強化」（39.6%）
- ・年齢別では、「地域ぐるみによる子ども見守り活動の強化」は18～39歳（31.3%）と比べて、60歳以上に多い（45.4～45.8%）



Ⅲ 補足調査（若い世代）

県民意識調査と概ね同様であるが、一部で若い世代特有の傾向が見られた。

分野	県民意識調査	18歳未満	18～39歳
産業の担い手確保・育成に必要な施策	①育児・介護者への支援(48%) ②正規雇用以外の就業(34%) ③若者の就職支援(34%) ④出産・育児後女性再就職支援(27%) ⑧ <u>残業縮減の取り組み</u> (17%)	①育児・介護者への支援(41%) ②若者の就職支援(41%) ③ <u>出産・育児後女性の再就職支援</u> (37%)	①育児・介護者への支援(57%) ② <u>残業縮減の取り組み</u> (36%) ③ <u>出産・育児後女性の再就職支援</u> (33%)
農林水産業の活性化に必要な施策	①新規就業者の確保育成(62%) ②地産地消の推進(38%) ③安全安心な農作物(30%) ④ <u>スマート農林水産業による生産性向上</u> (26%) ⑤ <u>ブランド化の推進</u> (23%)	①新規就業者の確保育成(45%) ②安全安心な農作物(37%) ③ <u>ブランド化の推進</u> (35%)	①新規就業者の確保育成(53%) ② <u>スマート農林水産業による生産性向上</u> (43%) ③地産地消の推進(39%)
文化活動のすそ野の拡大を図るために必要な施策	①子供、青少年が文化に親しむ機会(46%) ②文化を気軽に体験できるイベント(38%) ③一流の音楽などの鑑賞機会(30%) ⑩ <u>洋楽・邦楽コラボ等新たな文化の創造</u> (10%)	①子供、青少年が文化に親しむ機会(54%) ②文化を気軽に体験できるイベント(41%) ③ <u>洋楽・邦楽コラボ等新たな文化の創造</u> (26%)	(県民意識調査と傾向は同じ)
障害のある人の社会参加を進めるために必要な施策	①障害のある人の雇用拡大(52%) ②障害を理由とする差別解消の啓発(43%) ③福祉サービスの充実(38%) ⑤障害の原因となる病気の <u>早期発見等</u> (33%) ⑧ <u>スポーツなど多分野での交流</u> (15%)	①障害を理由とする差別解消の啓発(40%) ② <u>障害の原因となる病気の早期発見等</u> (38%) ③ <u>スポーツなど多分野での交流</u> (36%)	①障害のある人の雇用拡大(51%) ②障害を理由とする差別解消の啓発(43%) ③ <u>障害の原因となる病気の早期発見等</u> (38%)
安全・安心や地域経済の活性化のために必要な地域公共交通の施策	①鉄道・バス路線の維持(79%) ②バリアフリー化の推進(47%) ③空港等から観光地までの二次交通(31%) ④ <u>キャッシュレス決済の導入</u> (31%)	①鉄道・バス路線の維持(58%) ②バリアフリー化の推進(49%) ③ <u>キャッシュレス決済の導入</u> (47%)	①鉄道・バス路線の維持(68%) ② <u>キャッシュレス決済の導入</u> (58%) ③バリアフリー化の推進(39%)

IV 補足調査（移住者）

○あなたは、普段生活する上で、いま住んでいる地域（市町）に満足していますか（分野別）

- ・「県民意識調査」と同様に「食材の豊かさ、食べ物のおいしさ」「地域の治安のよさ」「周辺の自然環境」の満足度※が高く、全体的に「県民意識調査」より満足度が高い

※「満足している」～「不満である」を+2点～-2点の5段階で数値化した場合の加重平均値

